

日	曜	教室・行事等
2	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
3	土	人権啓発指導者育成講座 (13:30~15:30) 詩吟 (19:00~21:00)
5	月	いきいき百歳体操 (10:00~11:30) 健康・太極拳教室 (14:00~15:30) 運営協力委員会 (19:00~)
7	火	フォークダンス (10:00~12:00)
9	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
10	土	詩吟 (19:00~21:00)
12	水	いきいき百歳体操 (10:00~11:30) 健康・太極拳教室 (14:00~15:30)
13	火	茶道 (13:30~15:30)
16	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)
21	水	フォークダンス (10:00~12:00) 健康相談 (13:30~15:30)
24	土	詩吟 (19:00~21:00)
26	月	健康・太極拳教室 (14:00~15:30)
27	火	茶道 (13:30~15:30)
30	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:30~21:00)

～人権フィールドワーク～  
『伊曾乃橋 (通称:メロディー橋)』

「伊曾乃橋」は地域改善対策事業の橋梁整備として1983(昭和58)年3月に完成しました。それまでは「一銭橋」と呼ばれていた木の橋でしたが、加茂川の洪水のたびに流失し、その都度、架け替え工事をしなければならないという状況が続いていました。では、なぜ今このような歩行者・自転車専用道路としての橋が建設できたのでしょうか。

1965(昭和40)年「同和対策審議会答申」は、部落差別は「実態的差別」と「心理的差別」が相互に因果関係を保ち悪循環を繰り返しているとし、差別を解消するためには、この悪循環を断ち切ることでありと指摘しています。その実態的差別の解消を目的として、国は1969(昭和44)年に「同和対策事業特別措置法」を制定し、昭和40年代後半からは「心理的差別」を解消する同和教育の取組が全国各地で進められるようになりました。本市においては、「同和地区」(行政用語)の指定を行い、生活改善を中心に様々な同和対策事業が実施されました。事業の進捗に伴い、「なぜ、同和地区だけよくなるのか」という「ねたみ意識」が生まれるようになりました。その大きな要因は、同和対策事業に対する無知・無理解と、心理的差別解消のための教育・啓発が不十分であったということです。このような「ねたみ意識」の広がりにより、差別が一層厳しくなるという現状が生まれました。そのような現状を何とかしなければという想いの中で提案されたのが「伊曾乃橋」の建設でした。

橋の完成により、西条まつりには多くの市民が利用しメロディー橋として広く市民に親しまれるようになりました。

この橋を通して差別をなくしたいという先人の願いが込められている「交流の架け橋」なのです。

(「人権を考える日」啓発資料 2018年4月10日号より)



【開館時間】9:00～17:00  
【休館日】土曜日 日曜日  
国民の祝日 年末年始(12/29～1/3)  
※ 新型コロナウイルス感染症拡大状況により、予定が変更または中止になる場合があります。

第269回 会館ミニ展示会

『洋画展』

【日程】9月6日(火)～22日(木)  
【場所】大町会館 玄関ホール  
【提供】山本 英夫 さん

ここ大町会館(隣保館)は、人と出会い、交流、つながる場です。偏見や差別、排除のない多様な生き方やこれからの社会の在り方を語り合う場です。人と人がつながり合う社会に関心がある方、何かを始めたいと思っている方、お気軽にお立ち寄りください。ご心配事、悩み事など各種相談、お申込み・お問い合わせは、**西条市大町会館(☎0897-55-5393)**まで、お気軽にご相談ください。

# 大町会館 だより9月号

2022年9月 第269号  
発行:西条市大町会館  
西条市福武甲1644番地1  
TEL-FAX 55-5393  
Eメール  
omachikaikan@saijo-city.jp

## 『子どもたちは地域で育む ～イマココ子育て支援～』

### ～ 第3回人権啓発指導者育成講座 ～

第7波となる感染者急増のコロナ禍、そして連日の酷暑が続く8月6日(土)、今年度3回目の本館主催、人権啓発指導者育成講座を開催することができました。

講師として、最近テレビでも取り上げられた「イマココ子育て支援」より白石 小夜さんをお招きしました。会場の大会議室は、今年度最多となる出席者を得て、戸外の暑さに負けないホットな講座となりました。

はじめに、近年、全国的に話題となり急増している「子ども食堂」のを中心に、イマココ子育て支援の発足やこれまでの経緯について拝聴しました。現在、イマココさんは、子ども食堂を月1回(第1土曜日)に開催しています。「子ども食堂=子どもの貧困」と捉えがちですが、子ども食堂とは、地域の子どもたちや保護者などを対象に食事を提供するコミュニティのことです。その目的は、「地域交流の拠点」と「子どもの貧困対策」があります。イマココさんの活動は、地域住民のコミュニティとして幅広い年齢層の人々を受け入れながら、孤食・命を守る・栄養・交流など、たくさんの意味が含まれています。

現在、西条市役所の南側、うちぬき公園西隣(\*添付の写真参照)にてドネーション型食堂「ゴテンマエ食堂」をオープンしています。ドネーションとは「寄付」のことで、食事代金としてドネーション(寄付)込みで支払う食堂がゴテンマエ食堂です。営業日時は、毎週月・水・金曜日(祝日・祭日は休み)の11:30～13:30です。ここ数ヶ月はコロナ禍のため、テイクアウト形式で昼食を準備しています。ぜひとも、ご利用いただければ幸いです。

イマココさんの活動資金は、助成金・補助金・地域の方からの寄付からです。助成金は抽選しだいで、外れたら0円なのです。自主事業も始めましたが、これからさらに支援の幅を広げていくために、みなさんからのご支援をお願いしたいのです。



例えば、\*ごみ袋 \*子ども服 \*大人服 \*文房具 \*フード \*日用品など、随時集めて必要としている所へ配布しています。また、ボランティア及び有償ボランティアも随時募集しています。特に、調理が好きな方！ 子どもが好きな方!! 大募集&大歓迎です。

様々な課題や困難、生きづらさを感じている子どもたちやその保護者の未来のために、地域・行政・支援団体が一緒になって子どもたちを見守る活動に、ほんの少し気持ちをいただくと有難いです。



## 続くコロナ禍での 2022 夏

### ～ 人権・同和教育研修 & 子ども会活動 ～

7月中旬の3連休明け、県内及び市内での感染者の急増、その数値も一気に4桁という1,000人超えとなり、またも大きな波（第7波）が襲ってきました。数日後には、その最高値も2倍の2,000人を超え、連日報道される感染者数を示す数値に対して驚きよりも数字慣れの我が身にある面不思議な感覚を感じている毎日です。

このような状況下ではありますが、今年の夏は3年ぶりに行動制限を伴わず社会経済活動を進めていくとともに、それぞれに感染対策を十分に図りながらエンターテイメント的行事や夏祭り、花火大会、各研修会など、どれも中止とするのではなく、Withコロナとして様々な対応を施しながら開催しています。

しかし、それでも本館事業として行っている子ども会（神戸コスモス、大町竹の子会、友の会ジュニア、会館友の会）の夏休み学習会（夏休み中に4回開催）は、何とか1回だけでも開催したかったのですが、本当に苦渋の思いで中止を余儀なくされました。

大町合同子ども会の館外研修である市内フィールドワークも9月18日（日）に延期としました。一方、対面や会話を避けて開催できる会館での各種講座やサークル活動は、戸外の猛暑にも負けず劣らず、熱くエネルギーに燃える2022夏となりました。



大町会館を会場にしての教職員の現地研修では、7月に神戸小学校、8月には大町小学校と神拝小学校の先生方が来館され、人権・同和教育の研修を深められました。

「大町会館って何するところ？」や人権対策協議会西条支部の方々から差別の現実、部落差別の現状と課題などの講話を拝聴しながら、自分自身の差別心と向き合い、人権感覚を磨く現地研修になったかと思います。

さあ、9月、季節も少しずつ秋に向かっていきます。この「熱い」夏に努力したことは、必ず成果（本物の力）[実]となって自分のものとなります。どの皆様にとりましても、実り多き季節となりますように☺



【人対協支部役員お二人からの講話（神戸小校内研修）】

## 人権啓発指導者育成講座のご案内

令和4年度第4回人権啓発指導者育成講座（大町公民館と共催）を下記のとおり実施します。

《日 時》 9月3日（土）13:30～15:30

《場 所》 大町公民館 2階大ホール

《講 師》 安藤 宏幸 さん

《演 題》 『 水平社運動と水平社宣言 』

会場は大町公民館です。  
お間違えのないように！



※ご参加の際は、マスクの着用、手洗い・手指の消毒、検温等をお願いします。